

ながおかきょう さきょう さんじょう に ぼ う さんちょう

長岡京左京三条二坊三町の調査

調査地	向日市上植野町五ノ坪13-1, 13-2, 14-1
推定地	左京三条二坊三町、三条条間南小路、
調査期間	平成21(2009)年4月16日～6月24日（予定）
調査主体	財団法人向日市埋蔵文化財センター
調査主管	向日市教育委員会

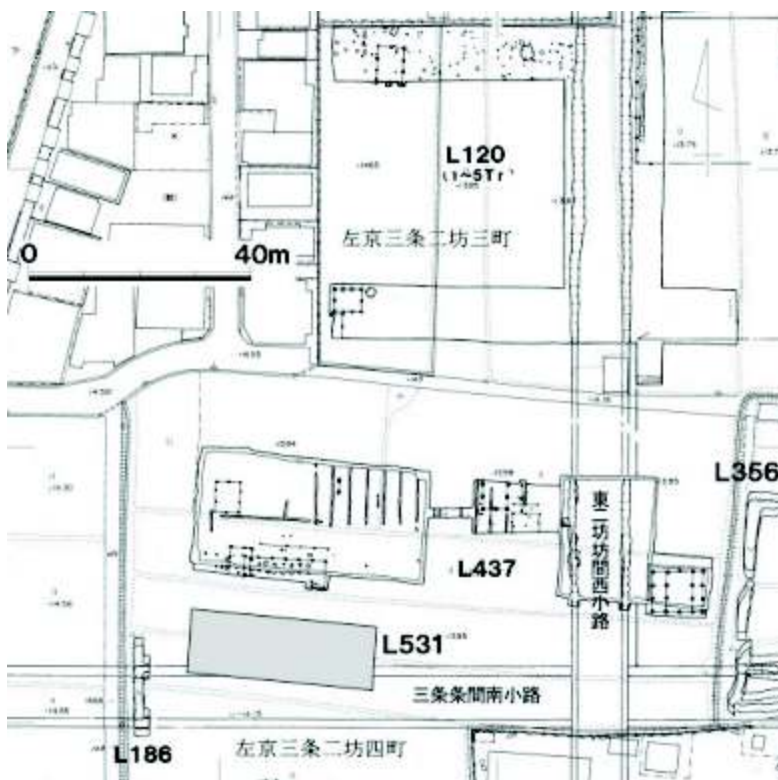
調査地と周辺の様子

本調査地は現地表で標高14.5m前後の緩扇状地上に位置します。今から約1200年前の長岡京跡では左京三条二坊三町の南辺中央部、三条条間南小路（三町の南側にある東西道路）の北側溝に推定されます。周辺の過去の調査には、北側の左京第120次調査、南西側の左京第186次調査、東隣接地の左京第356次調査、北隣接地の左京第437次調査があります。

左京第120次調査では、三条条間小路、東二坊坊間西小路、三町内で掘立柱建物2棟、井戸1基などを検出しました。左京第186次調査では、三条条間南小路北側溝から文字資料が出土し、三町内に官司に係わる施設が存在したと推定されました。左京第356次調査では、六町の南部が掘立柱建物、柵、井戸、長方形を呈する池状遺構で構成される特殊な宅地利用であることが明らかにされました。左京第437次調査では東二坊坊間西小路両側溝、六町域で両面廂付掘立柱建物1棟、南北溝1条、三町域で掘立柱建物5棟（うち1棟は甕据え付け穴を有す）、柵3条、門1棟、土壇1基、集石土壇1基、南北溝群、東西溝、整地跡が検出されました。

調査地に関連する当時の文献史料として、延暦十四（795）年正月二十九日の太政官符があります。

長岡京左京三条一坊八・九・十五・十六町、二坊三・四・六町を勅旨所藍園に、三条一坊十町を近衛府の蓮池とするというものです。この記事に拠ると当調査地は、平安京遷都直後に勅旨所の藍畑になったことが知られます。



左京第531次調査地と周辺の調査地

以上から、調査は左京三条二坊三町南辺中央の土地利用を明らかにすることを主眼に実施しています。

調査のあらまし

調査は、現代から過去に向かって、最初に水田耕作土と床土（水田の水漏れ防止用の土）を機械で取り除きます。まず、見えてきたのは、室町時代以降の遺構です。見つかったのは東西方向の溝でした。溝は5～6mの間隔で掘られていました。条里に関係する溝でしょう。さらに溝の掘り込まれている地層を掘り下げていくと長岡京期の遺構が見えてきました。長岡京期の遺構は、道路側溝1条、掘立柱建物2棟、宅地内の南北溝2条、井戸1基、土壙4基があります。

長岡京期の主な遺構の概要

〔三条条間南小路北側溝 S D 43109〕 調査区南側で見つかった東西道路の北側溝です。幅1.5m前後、深さ0.3～0.4mを測ります。埋土は大きく2つに分けることができ、上層は粘土質、下層は砂や礫です。水がよく流れていたことがわかります。溝内から木簡、墨書土器、銭貨（和同開珎・萬年通寶・神功開寶）、漆器、土馬、長岡京期の土師器、須恵器、軒瓦、平・丸瓦が大量に出土しました。

〔井戸 S E 43105〕 調査区中央で見つかった一辺0.9～1.0mをはかる方形の井戸です。周囲に板を縦に並べ、中に方形の枠をはめ込んで倒れないよう支えています。井戸の周りには、石が散乱することから石敷があったと考えられます。

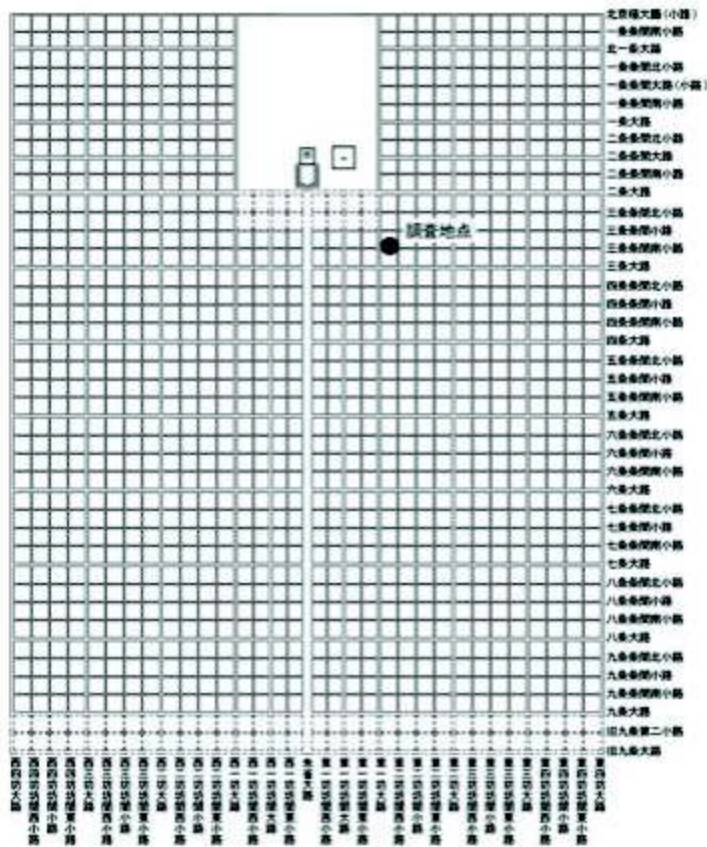
〔宅地内溝 S D 43110・11〕 宅地内から北側溝への排水用と考えられる南北溝です。幅0.4～0.8m、深さ0.1m前後です。溝と溝の間隔は26.6(約90尺)mです。

調査からわかったこと

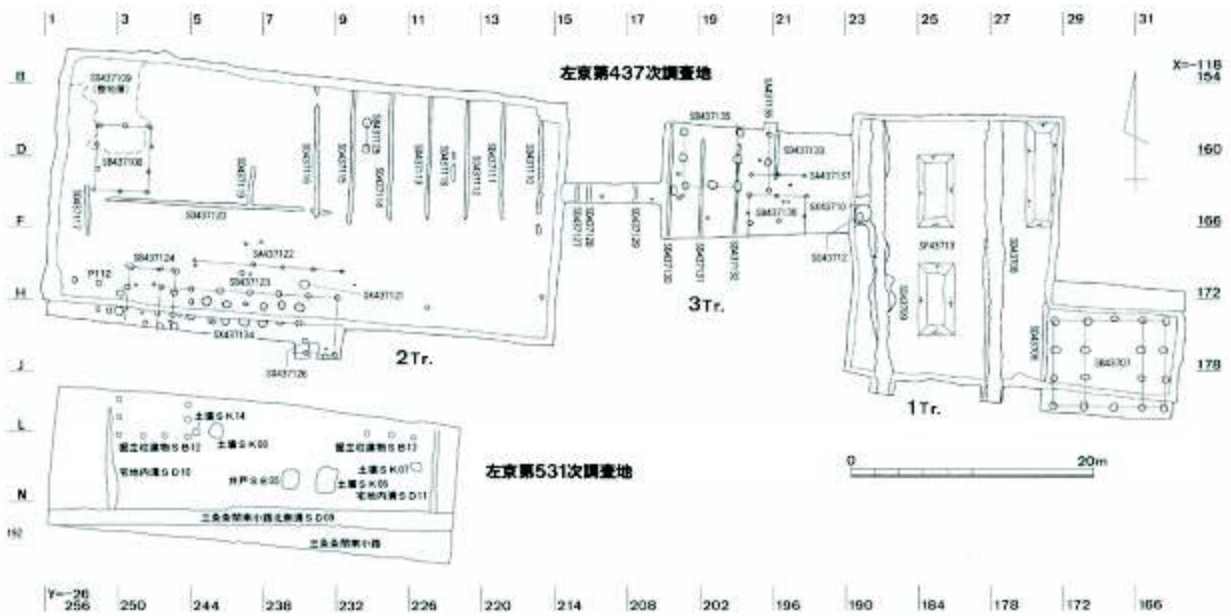
- ① 推定位置で三条条間南小路北側溝を確認することができ、都の都市計画である条坊制を復原する基礎資料となりました。
- ② 三町の南辺中央部は、溝で区画された宅地の東西に掘立柱建物を、中央に空間地と井戸を配していることが明らかになりました。
- ③ 掘立柱建物は左京第120・437次地点で見つかった掘立柱建物群と類似する方位を示すことから、同じ計画で建てられていることが判明しました。
- ④ 北側溝からは木簡・墨書土器や銭貨など多くの遺物が出土し、三町の性格をさらに解かりを得ることができました。



三条条間南小路北側溝遺物出土状況(東から)



長田区各坊埋戻図



左京第437次調査地との位置関係

